ながまち荘における
EPA介護福祉士候補者の受入れ
【事例報告】

社会福祉法人恩賜財団 済生会支部山形県済生会
特別養護老人ホームながまち荘
生活相談員　奥原　信
（社会福祉士　介護支援専門員　防災士）

施設概要

山形市(中核都市)：人口約25万人　高齢化率28%

平成２年７月１日　事業開始

- 特別養護老人ホーム（定員８０名　従来型個室８床/多床室７２床）
  （平均年齢：８５.5歳(60～99歳)　、平均要介護度４.０９）
- 指定通所介護事業所〈介護予防通所介護〉（定員３０名／日）
- 指定短期入所生活介護事業所〈介護予防短期入所生活介護〉（定員２０名／日）
- 居宅介護支援事業所事業
- 地域包括支援支援センター(山形市委託)
- 認知症初期集中支援チーム事業・認知症地域支援推進員事業(山形市委託)
- 通所型サービスＣ(山形市委託)

受入れの動機・理由

【国際貢献・交流、人材育成】

外国人介護士の受入れは、国際貢献・国際交流はもちろんであるが、介護福祉士国家資格取得を一つの目標に、外国人介護士の育成過程において「介護の質の向上」にも資する事業であること。また、当時は人材に余裕があったが、将来的には外国人材の力が必要になると考え２００９年に山形県内で初めて２人のEPA介護福祉士候補者(インドネシア人)の受入れを行った。

受入れの準備

生活の準備
アパート(山形済生病院看護師宿舎)の契約
家財道具(石油ファンヒーター、エアコン、冷蔵庫、ガスレンジ、掃除機、テレビ、絨毯、毛布、テーブル等)※施設負担で購入

支援体制の準備
山形インドネシア協会(門脇エニータ氏)
山形日本語ボランティア協会(上村淳子氏)

周知・理解
「インドネシアの文化を知る研修会」(門脇エニータ氏)
職員会議等
町内会・警察(交番)等への挨拶等

生活環境
徒歩や自転車で行ける距離にスーパーマーケットや病院があり、JRの駅やバス停も近く仙台や東京に行くにも便利

ながまち荘における外国人介護職の紹介

10 人や国の不平等をなくそう
17 パートナーシップで目標を達成しよう

●EPA(経済連携協定)による インドネシア人介護福祉士候補者受け入れ

★ながまち荘としては今後想定される介護需要の増大と外国人介護職研究の必要性から受け入れを開始した経緯がありました。

2009年度に山形県内で初めて日本・インドネシア経済連携協定（以下EPA)に基づき、介護福祉士取得を目的とした**インドネシア人女性２人**を受け入れている。
※４年間滞在し、１人が介護福祉士の国家試験合格。(家庭の事情により帰国)

2015年度：インドネシア人男性２名
※１人が介護福祉士の国家試験合格、１人は特例EPA介護福祉士候補者として滞在延長

2017年度：インドネシア人男性２名、女性２名受入れ

2019年度：インドネシア人男性1名、女性1名受入れ

2020年度：インドネシア人男性１名受入れ予定

※現在6名在籍、うち1名が同法人の山形済生病院に在籍出向中

2017年度候補者。来日する前の様子

ながまち荘における
EPA介護福祉士候補者への支援体制

学習支援

①研修担当者との交換日誌を用いた指導(１年目)

②日本語教師(山形日本語ボランティア協会)による日本語学習。

週２回×２時間

●基本的な日本語の文法等
●介護福祉士国家試験対策問題集(国際厚生事業団)を用いた指導

③介護福祉士専門学校教員(来所)による国家試験対策講座(３年目)

週１回×２時間

④介護系短期大学教員(来所)による国家試験直前対策講座

(国家試験２か月前)

最終年度後半は勤務時間の半分を学習時間(研修担当者が対応)に。

その他、模擬試験、ながまち荘独自の国家試験対策や勤務後の自主学習場所の確保など介護福祉士取得へ学習環境を整える。

ながまち荘における
EPA介護福祉士候補者への支援体制

生活支援

職場への適応促進、日本の生活習慣の習得のために・・・

①非常勤職員(山形インドネシア協会)によるメンタル面の　サポート。
入職２年は週１回×２時間(その後は随時相談)

●母国語でリラックスして話せる安心感がある。

②部署責任者、研修担当者、産業カウンセラーによる個別面談を行う。
※産業カウンセラー個人面談は年１回

●職場の担当者のほか、外部専門家のカウンセリングにより職場・プライベートの課題を小さなうちに解消していく。　年１回×５０分

③外国人介護職交流会

●山形県内外で働く外国人介護職とその支援者が集まり、お茶を飲みながら自由な意見交換を行う。　年4～５回

第１回外国人介護職交流会より
（平成２７年１２月２０日）

定住在留外国人
研修会より

（平成２９年１１月５日）
＊高松宮記念基金事業）

先進施設視察研修より
（平成３０年３月７日）

東北福祉大学の学習支援(宮城県委託)、宮城福祉会を見学

国際理解・多文化共生

10 人や国の不平等をなくそう
17 パートナーシップで目標を達成しよう

* 国を離れて学びながら働く、彼ら(彼女ら)と共に仕事・交流する中で・・・。
* (外国人に限らず)相手を理解しようという考え、思いやりの心が養われる。
* 日本人の特性、日本人らしさ、日本の“良さ”とは何かを再認識する機会になる。
* 謙虚で勤勉な彼ら(彼女ら)の教育・指導をする中で、自らを省み、また知識・技術を確認する機会になる。また職員全体の向学心に繋がる。
* 多様な人材に対応できることは、(外国人に限らず)誰もが働きやすく過ごしやすい環境づくりに繋がる。

介護甲子園最優秀賞！

第７回介護甲子園 H30.2.22(大阪)

広報誌や新聞に紹介されました

10 人や国の不平等をなくそう

17 パートナーシップで目標を達成しよう

特別養護老人ホームながまち荘(山形市)
介護職員 フィカ さん

インタビュー 第24回
「笑顔をつくる人」
～あなたの仕事 教えてください～

社士資格を取得したアグンさんより、日本の介護の方法などを聞く機会があり、もっと日本の介護について知りたいと思いました。インドネシアで日本語能力試験N4に合格して平成29年6月に来日し、半年間の日本語研修を経て12月から「ながまち荘」で就労・研修をしています。

1. 自己紹介をお願いします。

私は、EPA（経済連携協定）に基づく外国人介護福祉士候補者としてインドネシアから来ました。インドネシアでは看護師として働いていましたが、平成21年から同じようにEPAによる介護職員として「ながまち荘」で就労研修をして介護福祉士資格を取得したアグンさんより、日本の介護の方法などを聞く機会があり、もっと日本の介護について知

2. 今、どんな仕事・研修をしていますか？

利用者の入浴や排泄、食事支援などの介護の仕事を日本人介護スタッフと同じように行っています。初めは日勤のみでスタートしましたが、徐々に運番、早番などのシフト勤務も経験し、5か月目から夜勤業務も行っています。まだわからないこともありますが、介護の技術や利用者とのコミュニケーションもだいぶ上手くできるようになってきました。ただ、山形弁はまだわからないところもありますが……。

仕事のほかに、毎週1回施設に日本語講師が来て、私と同じEPAの仲間と一緒に日本語の勉強をしています。そのほかに休日を利用して、月3回、霞城セントラル内の国際交流協会で勉強をしています。

3. 日本の介護の仕事で印象的だったことは？

デイサービスで、利用者がカラオケやゲームなどのレクリエーションをしていることに驚きました。インドネシアの老人ホームでは、レクリエーションはほとんどありません。利用者と一緒のレクリエーションが本当に楽しくて、インドネシアでも広めたいと思いました。もともと私は日本の文化が好きなんです。施設の行事で踊ったり歌ったりすることが楽しくて、花笠音頭も踊れるようになりたいと思っています。

4. あなたにとってこの仕事の魅力は？

仕事と日本語の勉強は大変ですが、毎日たくさんの利用者とおしゃべりをしたり歌を歌うことが楽しくて、そのときは疲れが飛んでいきます。

5. 今後の抱負などを教えてください。

引き続き介護の仕事・研修を続けながら、介護福祉士国家試験に合格してEPA介護福祉士として就労できるようになることです。また、来年、日本語能力試験N2にチャレンジします。日本語の通訳もできるようになりたいと思っています。

将来はインドネシアで日本の介護について、特にレクリエーションについて広めていきたいです。

フィカさんの高いコミュニケーション能力と向上心にとても感銘を受けました。素敵な笑顔で利用者一人一人に言葉をかけている姿は、もう一人前の介護スタッフ。EPA介護福祉士候補者を受け入れている事業所側も、一緒に仕事をするスタッフもとても刺激を受けているそうです。日本とインドネシアを介護で繋ぐ架け橋として、フィカさんのますますのご活躍を期待します。

※EPA（経済連携協定）
関税の撤廃や貿易の自由化などを定めた自由貿易協定をもとに、投資、看護師など人の移動の自由化、知的財産の保護や経済協力のあり方など広い分野での地域間協力に関する協定。

たすけあいH30.11(山形県社会福祉協議会)

週刊 福祉新聞 THE FUKUSHI SHIMBUN
創刊1955年
2018年（平成30年）5月28日 月曜日発行
発行所 福祉新聞社 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-1 尚友会館1階 電話 (03) 3581-0431 www.fukushishimbun.co.jp

おむつゼロ、胃ろうゼロ…

007で自立支援

特養 ながまち荘（山形）

伴走型介護めざす

山形市にある社会福祉法人恩賜財団済生会の特別養護老人ホームながまち荘（峯田幸悦施設長）では、尊厳ある生活を支える自立支援介護を実施し、おむつゼロ、胃ろうゼロなど七つの「ゼロ」を目指した「007」を掲げる。

「介護の専門性を考えた時、笑顔や優しさだけでは十分な役割を果たせるとは思えない。介護職員には根拠のある介護により、入居者の生活の質を高めることが求められる」とし、その取り組みを示すのが007だ。

007の柱は日中のおむつゼロ。おむつを安易にすることで入居者が自信をなくしてしまう恐れもあるため、介護職員には確かな知識と技術をもとに入居者の尊厳を損なわない排せつ介護が求められると捉えている。

取り組み当初、日中のおむつ使用率は50%だった。利用者の排せつリズムを測るなど試行錯誤しながら少しずつ改善し、数年かけて0%を達成した。

胃ろうゼロに向け、利用者が口から食べることも追求する。入居者の様子だけで判断せず、明確な裏付けをもって取り組めるよう嚥下内視鏡検査も必要があれば行う。併せて口腔ケアにも注力する。

骨折ゼロ、拘束ゼロでは、転倒時のリスクを恐れて行動を制限するのは施設側の都合だと考える。介護職員が分析し、安全に過ごせるよう徹底する。また褥瘡ゼロに向け、医療、栄養、リハビリなど多方面からアプローチし、随時、会議で対策を協議する。そのほか下剤ゼロ、たばこゼロにも取り組んでいる。（榎戸新）

峯田施設長は「007を実施することで介護職員が入居者と共に歩む、すなわち深化・発展させた伴走型介護の実現につながる」と話している。

また同社では介護の魅力を向上させるため、「新3K」として改善介護力、国際介護力、貢献介護力を提唱する。007の取り組みは改善介護力につながり、国際介護力の一環としてEPA介護福祉士候補者（インドネシア）を受け入れ、介護予防サロン、防災など多くの地域貢献活動も展開している。その先に見据えるのは、根拠に基づく科学的介護の世界への発信だ。

ながまち荘ではEPA介護福祉士候補者（右）も自立支援介護を実践する

介護福祉士国家試験に合格！

10 人や国の不平等をなくそう

17 パートナーシップで目標を達成しよう

４年間の努力が実りました！

形 13版S 2019年(令和元年)5月3日(金) 朝日新聞

EPA介護士 県内2人目

インドネシアの28歳

日本とインドネシアの経済連携協定(EPA)に基づいて来日し、山形市の特別養護老人ホーム「ながまち荘」で働くインドネシア人男性が介護福祉士試験を突破、正規職員として採用された。県によると、EPAで受け入れた外国人の合格は6年ぶり2人目という。突破したのアンガルスマヘンドラさん(28)。母国の大学を卒業、病院の看護実習生を経て、2015年度に来日した。ながまち荘で介護の経験を3年積み、今年1月の試験に挑戦、見事合格した。EPAで来日した外国人の同試験の合格率は約50%という。

アンガルスマヘンドラさんは「夜勤明けの休日などを使って勉強してきたので、受かったと聞いてとてもうれしかった。もっと介護のスキルを上げ、山形で働きながら、大学の後輩や友人を呼びたい」と、流暢な日本語で話す。

ながまち荘では介護福祉士候補者として、現在6人のインドネシア人を受け入れている。岩崎勝也・管理課長は「介護現場は日本人だけでは支えきれない。(4月に解禁された)特定技能外国人の導入も視野に、日本語学習や生活の支援態勢を整えていきたい」と話している。(星乃勇介)

介護福祉士の合格を吉村美栄子知事に報告するアンガルスマヘンドラさん＝県庁

朝日新聞

山形新聞

介護福祉士合格、知事に報告 インドネシア出身・アンガさん

経済連携協定（EPA）に基づいて来日し、介護福祉士に合格した特別養護老人ホームながまち荘（山形市）のアンガ・ルスマヘンドラさん(28)＝インドネシア出身＝が18日、県庁を訪れ、吉村美栄子知事に報告した＝写真。県内に住む外国人では2018年度唯一の合格者で、6年ぶり2人目。

同施設を運営する山形県済生会の鈴木光弘常務理事や、施設の岩崎勝也管理課長と共に県庁を訪問。吉村知事は「活躍を期待している」と激励し、「外国人の介護人材の受け入れは、ますます進む。アンガさんから意見をもらい、県として支援策を考えていきたい」とした。

アンガさんは15年度に来日。同施設で夜勤などに励みつつ職員から介護技術、日本語の教育を受け資格取得を目指してきた。「心が伝わるよう利用者に笑顔で接していく。大学の後輩や友達が山形で働けるよう、架け橋になりたい」と意気込みを語った。

県済生会は、アンガさんの出身校であるインドネシアの看護系モハマディアゴンボン大学と連携協定を結び、介護人材の受け入れを進める方針。同会は介護や日本語に関する教育の支援体制を構築する考えで、岩崎課長は「日本人だけでは介護現場は支えきれない。EPAだけでなく特定技能での受け入れも模索したい」としている。

EPAで介護職に従事する県内の外国人はインドネシア6人、フィリピン2人の計8人となっている。(佐藤裕樹)

米沢養護学校への就労コーディネーターに関する部会に分かれ、非公

ながまち荘夏祭り

まとめ

　現在、ながまち荘にはEPA介護福祉士及び同候補者が６名(在籍出向の１名を含む)在籍している。みんな明るく、いつも素敵な笑顔で入居者、利用者そしてご家族からも慕われている。また勤勉で礼儀正しいその姿は、他の職員のお手本にもなっており、日本人介護士と同じ仕事を行える彼らは施設に欠かせない存在となっている。

　一方で、生活支援や日本語教育そして介護福祉士合格に向けた学習支援においては、昨今の外国人材需要の増加に伴い、支援体制の構築、教育の質の確保、職場や地域への定着に向けた課題があるのも事実である。

ご清聴
ありがとうございました。